

◀「あわただしい世の中で、花が人の心をなごませるのに役立てば…」と語る福島さん(松橋駅で)

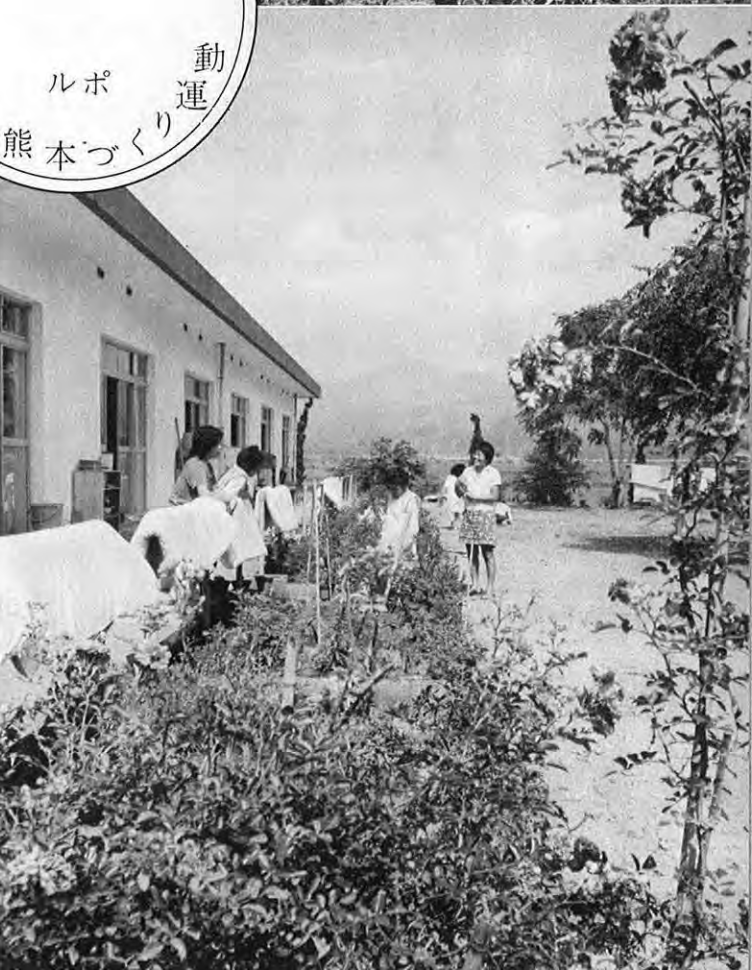
▼福島さんからサルビアの苗の寄贈を受ける熊本市緑化推進課の人たち(苗圃で)



広がる緑の輪
美しい熊本づくり
運動



▲花壇の手入れに精を出す「しらがね寮」の人たち
花づくりが機能退化防止に役立っている



花と明るい日射しがいっぱいの「しらがね寮」▶

善意の奉仕続ける

下益城郡小川町新田 福島 実さん(五十二歳)

「十年前から駅の出札をするようになって慣れるまでは毎日カネのことで頭の中がいっぱいでした。もともと花は好きだったんですが、直接にはそのことがきっかけになって、息抜きというか、自分を取り戻すために花づくりを始めました」と動機を語り、「苗圃六反は全部借地ですけど、近所の農家の人たちが、花づくりのためならと言って安く貸してくれるので助かっています」と部落ぐるみの善意であることもつけ加える。初対面でも誠実さがそのままこちらに伝わってくるようだ。

しかし、そうした謙虚さとは違って、花づくりを通じての奉仕活動は、大変積極的である。最近のものを拾っても、ことし五月から六月にかけてサルビアの苗十八万本を熊本、宇土、下益城の二市九町に寄贈したほか、昨年は宇土・不知火低用の各老人ホーム、松橋療護園・県庁熊本城・空港などに懸崖の菊の展示や葉ばたんの寄贈をして私たちの目を楽しませてくれた。そしていま、福島さんの苗圃には、懸崖の菊二百本、夏から秋にかけて紅葉するアキランサス、松二万本などが仕立てられている。とくに二万本の松は、熊本の一番ふさわしいところに植えたいのだという。

ところで、福島さんは勤務年数三十二年というベテランの国鉄職員。そのかわら、こうした善意の奉仕をするには、余程の信念なり、強い意志がないとできないことだ。その辺については「何よりも花づくりが好きだし、分けてあげた花がきれいに咲いているのを見ると、たまに嬉しく、大変口はばつたいのですが、ひとこと言わせてもらえば、公害とか自然の破壊などで世の中が住みにくくなったと言いますが、私たち一人一人にも多少の責任があるのではないでしようか」とあわただしい現代への批判もチヨッピリ。美しい熊本づくり運動については「まだかけ声だけが多いような気がします。もっと実践に力を入れなければ。これまでの経験からしても、熊本の場合あまり長続きしませんでしょう。だから『みんなできれいに』というのでもいいのですが、管理人を置くことなども必要ではないでしょうか」という提言をいただいた。

いま、各地の公園や道路沿線に咲き誇っている真赤なサルビアの花のように、福島さんの心は美しい郷土づくりのためにひそかに燃えさかっているような気がするのである。

美しい地域社会づくりに貢献

球磨郡上村 救護施設 しらがね寮

県の南部、宮崎県と境するところに標高一、四一七メートルの白髪岳がある。南西麓には熊襲(くまそ)が住み、その語源になったとも言われる狗留孫(くるそん)溪谷などがあって、一種神秘的な趣きを見せる山だ。上村はこの白髪岳から球磨川に向かって流れる幾筋かの川によって形成されたいわば扇状地で、北東には秀峰市房山(一、七二二メートル)を望む風光明媚な農山村である。

その一角、青々とした稲田に囲まれて村立の救護施設「しらがね寮」がある。救護施設というのは肉体的、精神的に恵まれない十八歳以上の人々のお世話をするところだが、しらがね寮では、機能退化防止をねらった花づくりが積極的に進められ、そうしたハンディキャップにもめげず、明るい地域社会づくりの一つの拠点になろうとしている。

施設がオープンしたのは昭和四十三年四月。開設当初は、村の森林組合から植木をもらったり、近くの篤志家から花の種をもらったりして、寮内の美化が進められてきた。その結果、いささか殺風景だった寮もいまはきれいな場所になった。寮内の美化が一段落すると、今度は村のフラワーロード作戦にもひと役買って出た。昨年は役場一帯の道路およそ一キロ

にわたって、寮・青年団・公民館などの手によってカンナの植栽が行われた。ことは寮の人たちがその補植をして、いま赤や黄色の鮮やかなカンナの花が道路沿線をはなやかに飾っているのである。また、美しい熊本づくり運動の一環として「花の銀行」がスタートすると、いち早く銀行開設を申し出て登録を済ませた。この春、中央銀行(県)から送ったケイトウ、コスモス、マリゴールドサルビアなどが寮の人たちの手で育てられ、近所や公民館、役場などに配られ、村人から感謝されている。寮の人たちは額に汗しながら「花づくりは楽しい」と笑顔で答える。

地域との融合という点では、このほか青年団との合同盆踊り大会、秋の合同運動会などが行なわれるが、これも寮の人たちの楽しみの一つになっている。美しく豊かな自然と周囲の人たちの暖かい思いやりが包まれて、寮の人たちは精一杯の生きがいを感じているようであった。

☆「花の銀行」の開設を希望される方は、お近くの市町村役場、県事務所総務課、または県庁自然保護課(電話・熊本六六一一一一)へお問い合わせ下さい。